

「戦争と医の倫理」の検証を進める会」が発足

医学界の戦争負担を検証し 医療の前進と平和のために

第28回日本医学会総会での具体化などめざす

先の中国侵略戦争(15年戦争)時に、日本の医学界があげてこれに荷担し、731部隊などの非人道的な行為に多くの医師・医学者が関わった事実を検証し、今後のわが国の医療の前進と平和の社会づくりを生かすための有志の組織「戦争と医の倫理」の検証を進める会」の設立大会が、9月27日(日)午後、東京大学医学部内で開かれました。

大会には米國からハーバード大学公衆衛生学部のダニエル・ウィクラフ教授(07年の大阪でのシンポジスト)、中國から731部隊罪証陳列館の金成民館長と黒龍江省社会科学学院の曲偉院長、作家の森村誠一氏

の医学者・医師による非人道的行為に真摯に向き合い、教訓を活かす取り組みがなされないまま、日本は21世紀を向かえました。一史実を明らかにし、検証を進めることは、医の倫理の確立やこれからの医学・医療のために不可欠で、そのためにも「日本医学会や日本医師会、各医学大会や大学が、自らの問題として取り組むことが欠かせない」として選出された役員体制では、顧問に日野原重明、酒井シズ、橋本葉子、早川一光、常石敬一氏など10人

大阪協会からも高本英司理事長、武田勝文副理事長と事務局が参加しました。これは、2年前の2007年に、大阪で行われた第27回日本医学会総会に際し、大阪府保険医協会も加わって有志の医師・医学者、医師・医療団体で取り組んだ「第27回日本医学会総会」で「戦争と医学」展実行委員会」を継承し、東京で2011年に開催される第28回日本医学会総会で、改めて過去の戦争への荷担の

検証を取り上げように行動を進めることなどを含め、新たに立ち上げたものです。大会には米國からハーバード大学公衆衛生学部のダニエル・ウィクラフ教授(07年の大阪でのシンポジスト)、中國から731部隊罪証陳列館の金成民館長と黒龍江省社会科学学院の曲偉院長、作家の森村誠一氏

の医学者・医師による非人道的行為に真摯に向き合い、教訓を活かす取り組みがなされないまま、日本は21世紀を向かえました。一史実を明らかにし、検証を進めることは、医の倫理の確立やこれからの医学・医療のために不可欠で、そのためにも「日本医学会や日本医師会、各医学大会や大学が、自らの問題として取り組むことが欠かせない」として選出された役員体制では、顧問に日野原重明、酒井シズ、橋本葉子、早川一光、常石敬一氏など10人

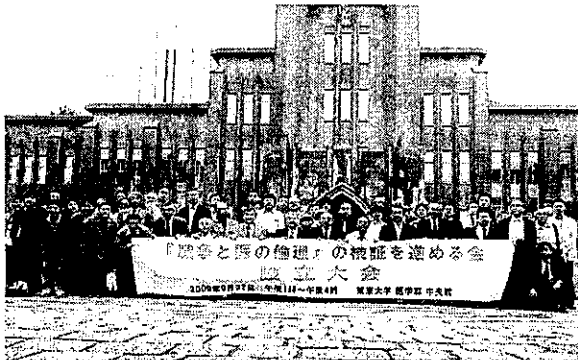
日野原重明氏ら顧問・世話人を選出

大会ではこれまでの経過報告と設立趣意書などが世話人から提案されて質疑が行われ、顧問や世話人体制が承認・選出されました。設立趣意書では「戦時中

の医学者・医師による非人道的行為に真摯に向き合い、教訓を活かす取り組みがなされないまま、日本は21世紀を向かえました。一史実を明らかにし、検証を進めることは、医の倫理の確立やこれからの医学・医療のために不可欠で、そのためにも「日本医学会や日本医師会、各医学大会や大学が、自らの問題として取り組むことが欠かせない」として選出された役員体制では、顧問に日野原重明、酒井シズ、橋本葉子、早川一光、常石敬一氏など10人



「戦争と医の倫理」の検証を進める会 設立大会



写真上=「会」設立後、安田講堂前に並んだ世話人と関係者。
写真下=1942年3月29日の医学会総会での幹部の写真。731部隊長の石井四郎、北野政次(前列の軍服)らの姿もみえる(731部隊罪証陳列館の資料より)